MOTO CORSÉ Presents

好きだから、こだわりたい

〝もっと上を体験したい、良いモノを知りたい〟という想いを純粋に育む
フルカスタムを施したパニガーレを駆る23歳のライダーがいる

PHOTO/K.MASUKAWA　TEXT/K.ITOH
取材協力／モトコルセ　TEL046-220-1711　http://www.motocorse.jp/

80年代初頭は大ブームゆえに〝バイクは子供の乗り物〟と揶揄されたりしたが、現在ではすっかり「大人の趣味」と認識されている。それ自体は良いことだが、若いライダーのあまりの少なさに、バイクの未来に寂しさを感じるのも事実。

……が、そんな不安を払拭してくれる若手ライダーも存在する。23歳の岡本俊樹さんもそのひとりだ。

岡本さんは16歳でバイク免許（普通二輪）を取得。子供の頃からクルマなどの機械が好きで、自転車にも相当ハマった経緯から〝免許を取れる年齢になったから乗る〟というのは自然な流れだったというが、じつはお父さんの影響も大きい。現在はバイクに乗っていないが、お父さんもかつてはホンダのフラッグシップCB1100Rに乗るライダーだった。クルマ趣味に転向し、幼い息子を乗せて良く走り回ったという。

免許を取った岡本さんが乗ったのはカワサキのニンジャ250で、ここは順当な選択。そして大学生だった18歳の時に大型二輪免許を取得。

「〝上〟があるなら乗ってみたい」という息子の想いに、『どうせ乗るなら〝良いモノ〟に乗ってみろ』とお父さん。そして初大型バイクとして19歳になったばかりの彼の元に納車されたのは、なんとドゥカティ1299パニガーレSだった。

「国内外のスーパースポーツはひと通り調べたのですが、パニガーレを選んだのは〝見た目〟に惚れ込んだからです。初めて乗ったときはスロットルのツキの良さに少し戸惑いましたが、ワインディングに行ったら〝運転が上手くなったんじゃないか〟と思うほど楽しく乗れました。自分に合っていたんでしょうね」という。

岡本さんのパニガーレは、ご覧のようにフルカスタムだが、一気にここまで来たわけではない。モトコルセムゼオのスタッフと打ち合わせを繰り返し、3年以上かけて自身の理想に近づけた。その熱意をアピールするかのような外装はすべてモトコルセのドライカーボン製で、カーボン地を残したグラフィックは、岡本さん自身がデザインしたという。

さらにホイールはマグネシウム鍛造、チェーン&スプロケットも520サイズに換装したので、押し引きするだけでも〝軽さ〟は別格。

「じつは後輪をSTDの55偏平から60偏平に変えてみたんです。最近はエアボリュームが多いハイトが高いタイヤがトレンドじゃないですか」……こんなマニアックな発言をする岡本さんのような若手ライダーが増えれば、バイクの未来も安心だ。

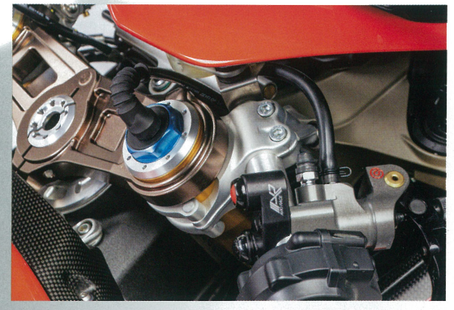
〝上〟が知りたくていちばんカッコ良いバイクを選んだ

1299 PANIGALE S
OWNER
岡本俊樹さん

ペグ・ペダルともにエキセントリックでポジションを変更できるモトコルセのライディングステップ。ペグはグリップの良いラジアルブロックに換装。リヤサスのリンク及びロッドも同社のCNCビレットを装備している

テールカウルにスマートにフィットするドライカーボン製のコンパクトライセンスプレート。小振りでシャープなデザインのLEDブレンカーもセットされる

ディスクローターは前後ともAlthに換装。ホイールはマグネシウム鍛造のマルケジーニM9RS Corsa。一見気づきにくいが、フロントのカーボンフェンダーはダクトが装備されたパニガーレV4用を装備している



トップブリッジはモトコルセのCNCアルミビレット。ブレーキ/クラッチマスターシリンダーは削り出しのブレンボレーシングを装備して、レースライクなコクピットに仕上げている